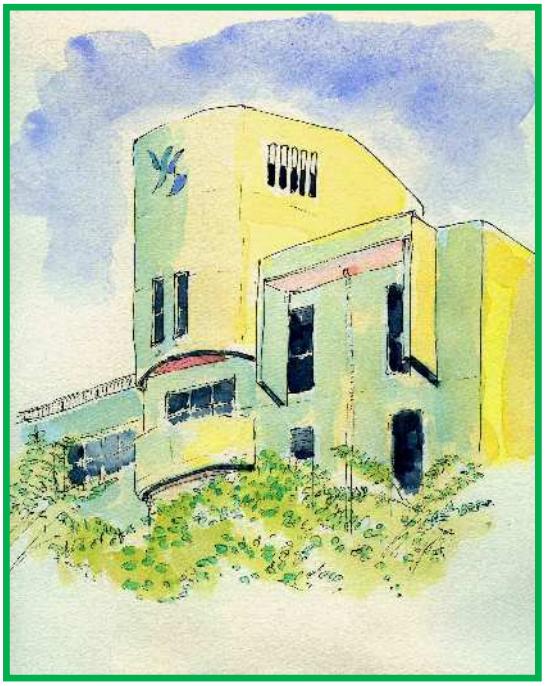
教科を超えてできること

「修悠館スタンダード」
（スクーリング編）

ver.8



平成２８年　１１月

神　奈　川　県　立

横　浜　修　悠　館　高　等　学　校

修悠館スタンダード　ver.8

【目次】

１．コンセプト

２．修悠館スタンダードについて・・・考え方のエッセンス

３．本鈴５分前～本鈴

４．スクーリングのなかでの心がけ

５．修悠館高校でのＩＣＴ利活用
①わかる授業のための教材の拡大表示
②学習経験の不足を補うための追体験
③ペイヴィオによる『二重符号化理論』
④タブレットＰＣの活用

６．その他のスクーリングに関すること
〈ネタ〉の楽しさ　活動の楽しさ　わかる楽しさ。〈ネタ〉とは、

７．ｖｅｒ．９へ

８．バージョンアップ情報：

資料１

◇修悠館スタンダードに基づいた環境調整の例

◆本鈴 10 分前～開始後５分後チャイムまでの実践例（国語科）
◆こんなときは・・・・・ほめるより、勇気付ける
◆みんなが見やすい色環境への配慮　その具体例
◆ティーチングとコーチング

資料２

平成 27 年度　スクーリング見学週間についてのコメントとまとめ、
卒業時に身につけておいてほしい力

教員から生徒への声かけ部分をポップ体の書体で示しています。（この書体）

平成 28 年(2016 年)　11 月　14 日
経営企画・広報グループ

教科を超えてできること

「修悠館スタンダード（スクーリング）」（ver. 8.73）

コンセプト

◆「（発達障がいの生徒に対する）無いと困る支援」が、
「（全ての生徒に対する）あると便利な支援」になる。

◆スクーリングについて来られない生徒に目を向け、メンタル面までフォローする。

◆わかる楽しさ、できた喜びと達成感！、〈ネタ〉・活動の楽しさ
〈ネタ〉とは、ことば・話題・しぐさや話し方・教材・教具・実験・流れ・・・・

◆「支援教育」と「学力向上」の２つを同時に実現しようというチャレンジ！
「誰もがわかる授業」に向けて。　（ver. 8 から ver. 9 へ）

◆まずは、「簡単にできそうなことから」

「修悠館スタンダード」について・・・考え方のエッセンス

◇「修悠館スタンダード」は、通信制高校のユニバーサル・デザインを基にした学習支援の方法を教職員全体に呼びかけるものです。
◇単位修得率向上を目指してスタートしたユニバーサル・デザイン化が様々な面での変化をもたらしました。

a
個々の生徒の特性をつかみ、特性に合わせた配慮をし、それを教育技術として他の教員に伝えていく。

→

b
a の実践を通して、教員の生徒個々の特性の見え方に変化が起こり、新しい教育技術の提案へとつながる。この提案の交換は、授業見学月間（年２回）と授業見学シートによってシステム化されている。

→

c
b の提案は、教育技術だけではなく、学習環境の調整や支援システムの工夫へと拡大していく。

→

d
c の拡大は、教職員全体の意識改革へとつながっていく。

→

e
d の意識改革は、a での生徒との出会い方にも変化をもたらす。

↑

a～e のような変化が、修悠館スタンダードをたえず更新させ、そのあり方を可塑的なものとしてきた。

（次ページに続きます）

1. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、ユニバーサル・デザインを基にした修悠館高校独自の取り組みです。
2. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、教育技術のみにとどまるものではなく、レポートの体裁、学習形態や支援体制の工夫、教職員の意識改革にもつながるものです。
3. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、生徒だけでなく、教える側にとっても効率的であり、効果的でなければ意味がないと考えます。
4. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、バージョンが上がる度に取り組みの領域が広がっています。
5. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、教職員や生徒が気付いたところで、できるところから手を付け、少しずつ進めていく、という地道な努力でできています。

そのために、**「簡単にできそうなところから」、**まずは始めていきましょう。

でも、

6. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、全体に提案されたもので、強制力はありません。
7. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**は、提案されたものをどこまで実践するかは、各担当に委ねられています。
8. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**という指針を教職員全体で共有、実践し、日々のスクーリング改善に生かしていくことで、生徒の学ぶ意欲の向上と潜在能力を伸ばす適切な学習指導へとつなげます。
9. 修悠館では、シンプルで、取り組みやすい統一されたレポートへの改善**「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ（レポート）」**にも取り組んでいます。
10. **「修悠館ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」**をより良くしていくために、

議論を深め、意見を重ねていき、一つ一つ進めていくことが大切だと考えています。

１． 本鈴５分前～本鈴

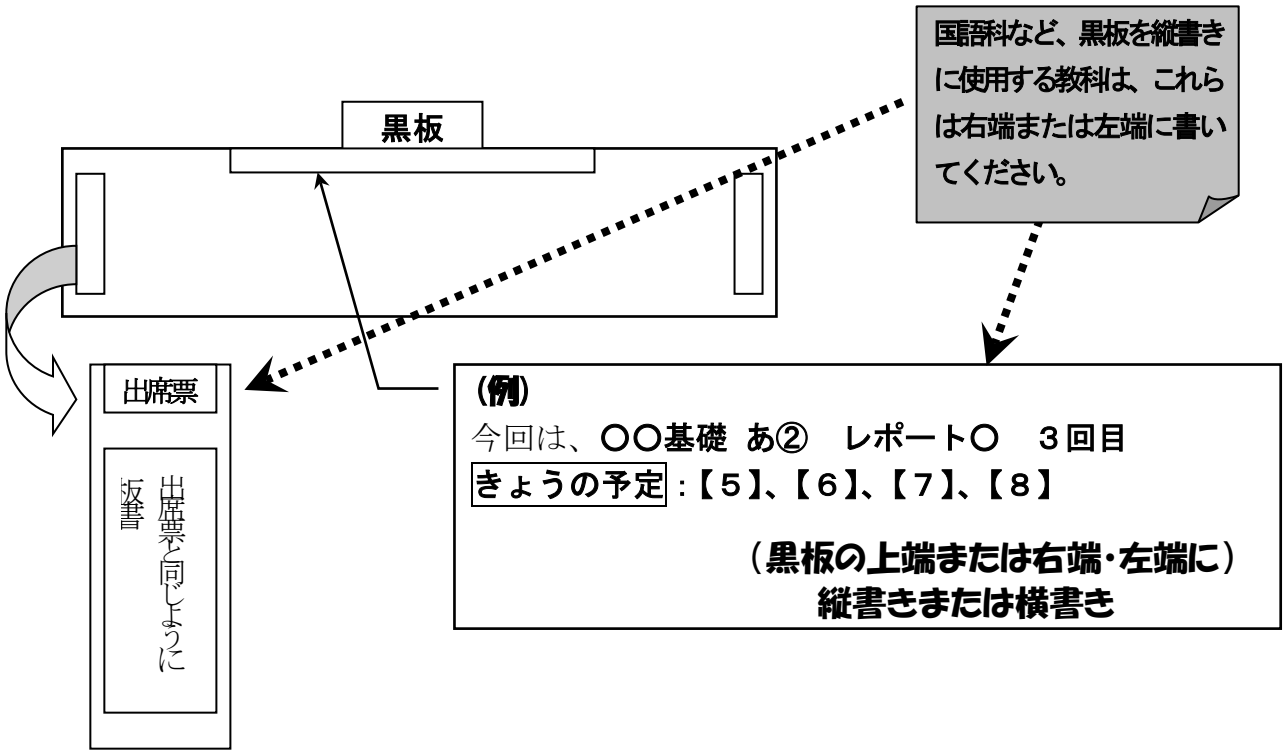
準備１：**スクーリング開始時はきれいな黒板を心がける。**

準備２：**ていねいで大きめの文字、罫線。**
行間をとり、**チョークの色**を工夫する。
①チョークの置き場所は**黒板に適度に分散させる（左、中央、右）**。

準備３：**出席票の書き方を板書等で明示し、口頭でもくり返し伝える。**
すぐに回収する場合は、
①回収しながら、**記入や受講の誤り**がないかを確認。
②生徒の顔と出席票の名前を照らし合わせると、覚え易い。
③教卓に出席票を座席順に並べて、**座席表代わり**にする。

準備４：**「レポート○」　△回のうち、今回は第◆回目のスクーリングであることを板書等で明示する。**

きょうの、このスクーリングは、「○○基礎　あ②」、対象クラスは○□組です。
担当は、私「○□」です。
きょうは、　○月　△日　□△曜日。　今は、○校時目です。
レポート○の3回のうち、今回は第３回目のスクーリング、です。
きょうの、このスクーリングで、このレポートは完成します。



２． スクーリングのなかでの心がけ

はじめに：①今日のスクーリングの予定を示す。

（きょうは、問【　　】から【　　】までを説明する予定です。）

②流れや手順を明確にする。

（前回は、こんなことをやりました。今回のスクーリングでは、こんなことをやります。）

③はじめと終わりを明確にする。

（では、【　　】の問題に入ります。これで【　　】は、終わりました。 つぎに【　　】です。）

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ１：板書の工夫（黒板の分割など）をする。

①「枠の効果」を利用する

伝えたいこと、重要なことを枠の中に書く。

②板書は整理して

③意味のまとまりで区切り、スペースを空ける。

④改行する際は、ひとつの言葉が２行に渡らないようにする。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ２：教科書・資料集・レポートのページ、問題番号を目立つように（チョークの色を変える、番号や記号を囲む、など）板書する。

① レポートの解答となる部分は、チョークの色を変えるなどで、目立つように。（チョークの色の意味を伝える）

注意 チョークの色について、見やすくするために使ったことが、“色”に注意が向いてしまい、かえって、分からなくなってしまうことがある。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ３：机間支援（机間指導）を行う。

①生徒一人ひとりの理解の様子・レポートの進み具合を確認。

②机間支援(机間指導)時の添削（○を付ける）は、生徒の達成感を高め、自信を付ける効果がある。

③添削できなくても、生徒のやっていることを確認するだけでもよい。

気持ちの隅において
（普段のスクーリングの流れに影響ない程度に）

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ４：話し方・口調・使う言葉・用語についての心がけ

① 一回の指示で、一つの内容を心がける。←（レポート作成にも応用可能）

② 指示は短く、簡潔で具体的にひとつずつ。

③ 二重否定は避ける（「通れないことはない」→　「通れる」）

④ 「言葉を略さず、気持ちや考えがきちんと伝わる言葉」で話す。

⑤ 語調に変化をつける。

⑥ 言葉のイメージ力を生かす。

⑦ 否定ではなく肯定的表現、賞賛と肯定の言葉を使い、自信を持たせる。
ほめる材料はいくらでも見つかる。

⑧ **達成感が感じられる授業**を目指す。
⑨ 質問での追い込みは避ける。（投げかけて、考えさせる。）
⑩ **抽象的な言葉は具体的な言葉に、難しい用語や説明はやさしい言葉に言い換える。**
⑪ **長い説明は、細分化。（1つ目は、･･･。 2つ目は･･･）**
⑫ **一言一言ゆっくり、繰り返し**話す。（繰り返しは端的に）
⑬ （難しいですが、）**スピードよりも丁寧さ**に重きを置く。
⑭ 声量ではなく、はっきり聞こえる話し方や声の出し方の工夫をする。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ５：**その他の心がけ**
① **生徒への目配り（生徒の動き・反応をよく見る）**をする。
② **話の内容を精選**する。
③ **適切な時間配分になるよう、工夫**する（生徒も安心して取り組める）。
④ **生徒の作業時間を確保**する。
⑤ **単元での「キーワード」をうまく利用**する。

３． 修悠館高校でのＩＣＴ利活用

◆本校では、全ての学習教室、特別教室、会議室にICT設備（プロジェクタ、ロールアップ型スクリーン、接続ボード、校内LAN(一部無線LAN)が整っていて、先生方が利活用されています。
◆ほかにも、書画カメラ、電子黒板、大画面デジタルTV、ノートPC、タブレット等があります。

①わかる授業のための教材の拡大表示
②学習経験の不足を補うための追体験
③ペイヴィオによる『二重符号化理論』
④タブレットPCの活用

① わかる授業のための教材の拡大表示

ＩＣＴ活用１日常的に気軽に安全に使える（教室への機器常設）

ＩＣＴ活用２授業がもっとよくなるプロジェクタの活用パターン

	活用パターン（ねらい）	活用場面例
1	授業内容を振り返る。	・前時の学習を振り返る。 ・前時の実験の過程を振り返り、本時の学習につなげる。
2	わかりやすく説明する。	・教科書の説明図を大きく提示し、書き込みをしながら説明する。 ・デジタル教科書の地図を大きく提示して説明する。
3	明確に伝える。	・資料の図を大きく映し、着目するところを示す。 ・電流計を大きく提示し、どう読み取ればよいのかを示す。
4	興味・関心を高める。	・導入時ビデオなど映像を映して興味関心を持つようにする。 ・テレビ会議による他校との交流を通じて、県内の特色ある地域への関心を高める。
5	実演でやり方を示す。	・先生の実演を実物投影機で提示する。 ・生徒の実演を映し提示する。
6	生徒に考えさせる。	・生徒が考えたいくつかの解き方を比較して見せる。 ・図形を動かして見せ、課題を明確につかませる。
7	生徒が発表する。	・個人またはグループで調べたことを発表する。 ・いろいろな直方体の展開図について発表する。
8	知識･スキルを定着させる。	・ピクチャーカードを使って英単語を定着させる。 ・顕微鏡で見える様子を大きく映して、顕微鏡の使い方を学習する。

（http://jouhouka.mext.go.jp/school/denshi_kokuban_katsuyo/）を参考にした。

ＩＣＴ活用３電子黒板と従来黒板の使い分け

	マーキング機能を有する大型表示装置による提示	従来の黒板
提示に適するもの	・従来の黒板では表現できないもの	・文字や簡単な図
提示内容と提示のさせ方	・準備した教材を瞬時に提示、 ・図、表、図形、前時のまとめなどそれらに、マーキング、コメント、補助線などを追記できる	・時間をかけずに書けるもの ・生徒の理解速度に合わせて書いていくもの 生徒の発言内容 ・必要に応じてシートも利用
提示時間	比較的短時間で書き消しするもの ただし、同じ内容を再提示することもできる	・しばらく残しておくもの（指示、ポイント） ・ノートを取らせる内容 ・まとめ、振り返り時に、学習内容全体を見るためのもの

② 学習経験の不足を補うための追体験

修悠館高校の生徒は、学習経験や体験が少ない生徒が多く、言葉だけでなく、具体的な映像によるイメージを示すことで、理解や知識の定着を助ける効果が期待できる。

③ ペイヴィオによる『二重符号化理論』

私達が英単語を覚える際、抽象的な単語よりも具体的な意味を持つ単語の方が暗記しやすいのは、その言語情報に加え、**具体的な事象のイメージ**を持ち易いから（二重符号化理論）。

④ タブレットＰＣの活用

ＩＣＴ活用１ 教員が一斉授業（スクーリング）で、提示用に使う。

ＩＣＴ活用２ 教員が一斉授業（スクーリング）で、提示用に“ノートＰＣのサブとして”同時に使う。（プロジェクターに接続したり、教材提示装置で生徒に提示する。）

ＩＣＴ活用３ 生徒が記録・振り返りに使う。

ＩＣＴ活用４ グループ学習、調べ学習、討議で使う。

ＩＣＴ活用５ １人１台での環境で協働学習や習熟度に応じた個別学習に使う。

４． その他のスクーリングに関すること

その他１：**教室変更**

① 教室変更の際は、混乱しがちな生徒がいるので、教室変更の掲示だけでなく、**案内の教員**がいると生徒は安心できる。

② **掲示場所の統一**や**掲示用紙の色・大きさ・書式の統一**ができると良い。

その他２：**補助プリントの活用**　**（視覚に訴えて、「わかる！」）**

（教室の入り口に置く、出席票を配るときに一緒に渡すなど）

その他３：**教具・実験などの活用**　**（視覚に訴えて、「わかる！」）**

（見にくい時には、教材提示装置などのＩＣＴ機器を活用して）

その他４：**電子黒板・電子教科書・プロジェクタなどの活用**

（視覚に訴えて、「わかる！」）

（黒板との使い分け、「３．普通教室でのＩＣＴ活用」を参考に）

その他５：**タブレット端末など情報機器の活用（「３．普通教室でのＩＣＴ活用」を参考に）**

手書きノートとして、カメラ機能、ビデオ機能など

（五感に訴えて、「わかる！」）

その他６：スタイル（「楽しい！」が一番！）

いろいろなことができるのが、通信制です。やってみましょう。

〈ネタ〉の楽しさ　**活動の楽しさ**　**わかる楽しさ**

〈ネタ〉とは、ことば・話題・しぐさや話し方・教材・教具・実験・流れ・・・・
レポートの答えを写すだけのスクーリングにならず、
出席したら、面白い話が聞ける、面白い経験ができる、
わかる・できるようになった！
また、スクーリングにでたいな！！・・・“楽しい”スクーリングに。

その他７：レポートの改善

① 修悠館では、シンプルで、取り組みやすい統一されたレポートへの改善
「修悠館スタンダード（レポート）」に取り組んでいます。
② **「修悠館スタンダード（スクーリング）」**と**「修悠館スタンダード（レポート）」**で、
生徒の学ぶ意欲の向上と潜在能力を伸ばす適切な学習指導へとつなげます。

その他８：教科間のスクーリング見学

① **他教科のスクーリングを見学することで、いろいろな発見があります。**
教科内のスクーリング見学に比べて、
（１）見学時間がとりやすい。
（２）見学する側もされる側も気軽に見学できる。

その他９：画像や映像として残す（タブレットの機能を使うと簡単です）

① 記録として残す。スクーリング改善など。
② ＩＴ講座用の動画として活用する。

５．　ｖｅｒ．９へ

ヒント１：「誰もがわかる授業」に向けて
「支援教育」と「学力向上」の2つを同時に実現しようというチャレンジ！
（今回の**本鈴 10 分前～開始後５分後チャイムまでの実践例（国語科）**は、取組みの１つです。）
ヒント２：レポート以外にも様々な方法で関心を持ってもらおう。
ヒント３：新しい試みに取り組むことで、新しい課題が見つかったり、面白い工夫につながっていく。
ヒント４：A4 で１枚のダイジェスト版を入れる。

６．　バージョンアップ情報：

Ver.7.45　→　8.73

① 修悠館スタンダートを１枚でまとめた表紙（ダイジェスト版）を作りました。

② **コンセプト３つめに**「できた喜びと達成感、！」を加え、整理しました。

③ **本鈴５分前～本鈴**　に実践例**本鈴 10 分前～開始後５分後チャイムまでの実践例(国語科)**を加えました。

④ **３．普通教室でのＩＣＴ活用**　を加えました。

⑤ **４．その他のスクーリングに関すること**　を今回のバージョンアップ内容に合わせて、加筆しました。

⑥ **５．Ver. ９へ**　を、②に合わせて書き換えました。

⑦ 用語、表現、レイアウト、文章の区切りなどを見直し、字句の修正、訂正をしました。

⑧ **修悠館スタンダードに基づいた環境調整の例**の写真を一部入れ替え、追加し、説明を加えました。

⑨ 資料１「実践例」、「囲み記事」を後に資料１にまとめました。

⑩ 資料 2「スクーリング見学週間コメントとまとめ」を昨年度のものに入れ替え、「卒業時に身につけておいてほしい力」を加えました。

⑪ 【目次】のページをつくりました。

⑫ カラー化に合わせて見やすくするため、本文と囲みの色、フォントを変えました。

⑬ 表紙に「教科を超えてできること」を入れました。

Ver.6.31　→　7.45

① **５．バージョンアップ情報**　を加えました。

②「**コンセプト**」をひとつ増やしました。

③「**修悠館スタンダード」について、に“考え方のエッセンス”**の図と説明を加えました。

④ ２．スクーリングのなかでの心がけ

「◆みんなが見やすい色環境への配慮」色覚異常の生徒に対する配慮を加えました。

併せて、「◆ティーチングとコーチング」の配置も見直しました。

⑤ ｽｸｰﾘﾝｸﾞ４、ｽｸｰﾘﾝｸﾞ５に加筆しました。

⑥ **４.バージョン８へ**　を加えました。

⑦ 用語、表現、レイアウト、文章の区切りなどを見直し、字句の修正、訂正をしました。

⑧ 資料「スクーリング見学週間コメントとまとめ」について、“教科会でのまとめ”も加えて、「スクーリング見学週間のまとめ」となるようにしました。

⑨ 資料「スクーリング見学週間コメントとまとめ」に“キャリア科”を加えました。

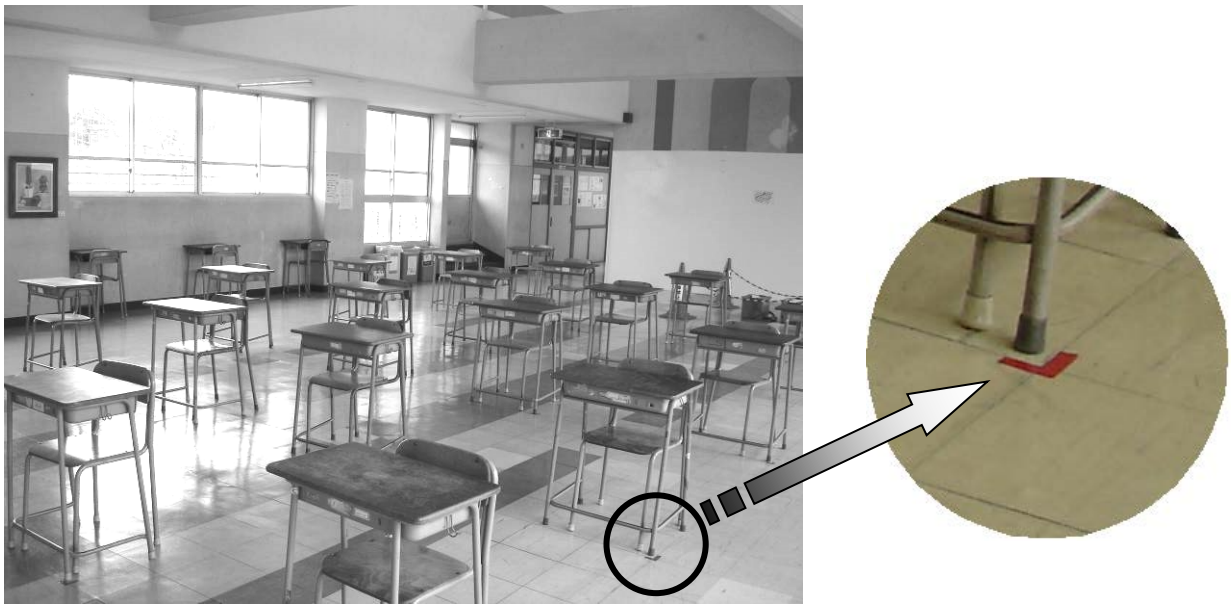
⑩ **修悠館スタンダードに基づいた環境調整の例**の写真を一部入れ替えました。

◆まずは「簡単にできそうなことから」。
◆なかなか学習が進まない、成績下位の子どもたちの学力形成のいかんは、

「先生方の教え方にかかっています」

資料１

修悠館スタンダードに基づいた環境調整の例



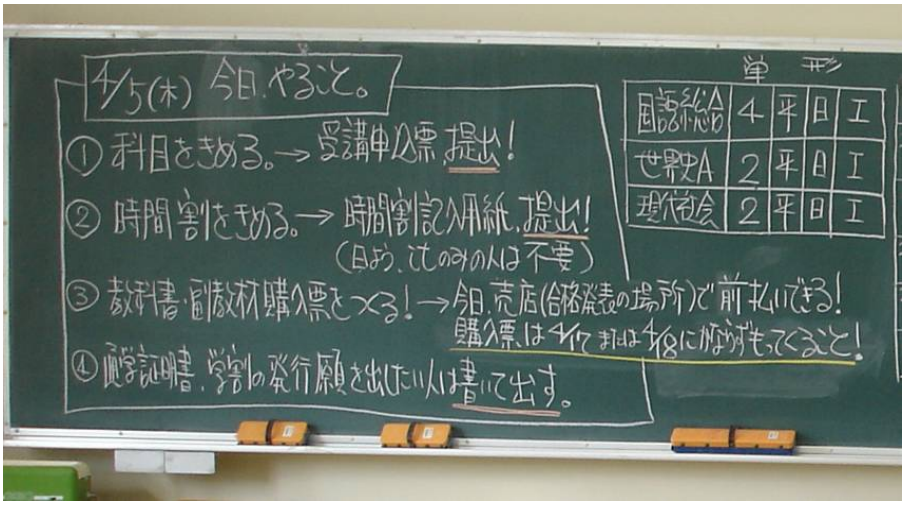
【写真１、２】環境調整の例･･･空きスペースでの生徒自習用机・椅子の並び
（机の脚の位置を示すマークが床に貼ってある）

【写真３、４】環境調整の例･･･校舎や学習室の場所の示し方
（突き当り、歩いた先に示しておく）

【写真５】環境調整の例･･･学習室の掲示

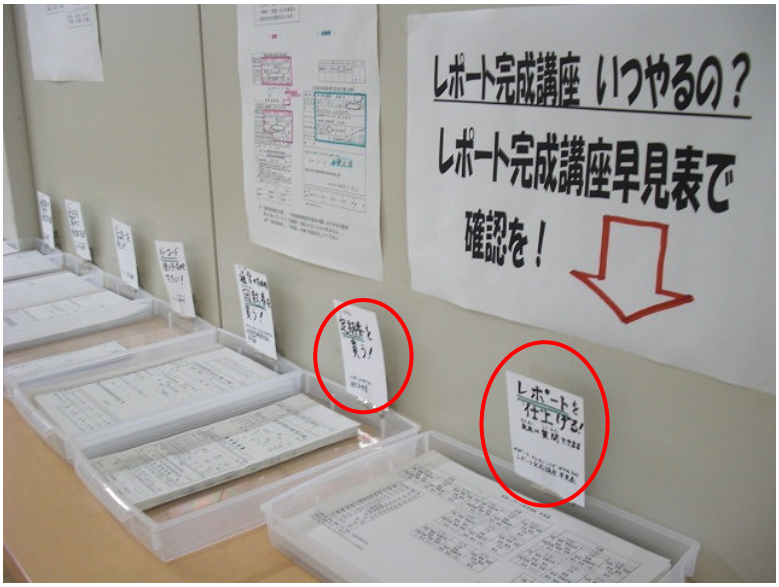
【写真６、７】環境調整の例･･･シンプルな学習室と教室内の掲示

【写真８】環境調整の例･･･スクーリング開始前に本時の内容、
スクーリングに必要なものを示す。出席票の記入。



【写真９】「修悠館スタンダード」（枠の効果）に基づいた板書例

【写真 10】環境調整の例･･･目的別に色分けした掲示板



【写真 11】環境調整の例･･･多種にわたる書類をわかりやすく

【写真 12, 13】環境調整の例･･･わかりやすい掲示

【写真 14、15】スクーリングの工夫

【写真 16、17】【写真 14、15】の拡大

【写真 16、17】スクーリングの工夫

【写真 18、19】【写真 16、17】の拡大

本鈴 10 分前～開始後5分後チャイムまでの実践例（国語科）

準備１：始まる 10 分ほど前に教室へ行き、入口近くの机に補助プリントを置く。

準備２：入ってくる生徒に１部取るように声をかける。
（すでに教室に入っている生徒や声をかけてもとらない生徒がいるので、
スクーリングを始める前に必ず全員が持っていることを確認する。）

準備３：「黒板（板書）は１時間に１枚」(※) を実践しているので、
スクーリングが始まる前に書き上げておくと、学習に「困り感」のある生徒には
見通しがたって良い様子。

準備４：板書が終わったら、生徒の間を回り、スクーリングに必要なもの、
準備１，２の補助プリントを持っていることを確認しながら、出席票を配る。
（この時点で、スクーリングに必要なものが不足している生徒を退出させる。）
始まる 10 分ほど前に教室へ行き、入口近くの机に補助プリントを置く。

はじめに：チャイムが鳴ったら、
黒板両サイドの「出席票」と「レポートとスクーリング」の内容を読み上げる。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ １：科目により、教室全体に、

①スクーリングに必要なもの、　②出席票の書き方、
③レポートの提出方法について、を知っているかを声をかける。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ ２：レポートの学習内容と今回の学習の流れについて、
板書を指し示しながら説明する。

ｽｸｰﾘﾝｸﾞ ３：補助プリントは次回以降も必ず持参するように伝える。

開始後５分後のチャイム：机間を回って出席票を回収する。

（生徒数と出席票の枚数が一致していることを確認）

～～　学習を始める　～～

(※) 他教科にも「黒板（板書）は１時間に１枚」を実践している先生方がいらっしゃいます。

◆みんなが見やすい色環境への配慮

□色の見え方が他人と異なる子どもは、各クラスに一名ぐらいの割合でいます。

色は見えているが、色の組み合わせや環境・条件によって似かよって見えてしまう生徒がいる。色の見え方が他人と異なる生徒への配慮、状況に応じた配慮と指導で、バリアを低くすることができる。

(例)配慮が必要な色の組み合わせ

「緑と灰色・黒」、「ピンクと白・灰色」、「赤と黒」、「ピンクと水色」

形や大きさを変えるなど、色以外の情報を加える。

色名だけで示すのではなく、位置・形を補足して、指示棒やポインターを使って説明するなど色以外の情報を加える。

(具体例)

掲示物・プレゼンテーション ⟶ ①色の数を少なくし、色の多用に注意する。色以外の情報を加える。
②文字と背景の色には、わかりやすい組合せの色を使用し、明暗のコントラストがはっきりわかるようにする。

色刷りの資料 ⟶ ①(基準として)白黒コピーをしても、判別できるものが良い。

地図 ⟶ ①使用されている色分けは言葉で説明する。

体育の実技 ⟶ ①ビブス(上に着るベスト状のもの)、タスキ、鉢巻きなどは、見分けにくい色の組み合わせは避ける

理科実験 ⟶ ①「色が変わりました」ではどう変わったのか分からないので、"右手を高く上げ、「こちらはピンクになりました」といえば、理解しやすい。
②色の変化の程度が判断できるように、文字で表現するなどの工夫をする。

写生や自然観察、実験・実習 ⟶ ①色使いが異なった生徒がいても、叱らない。
②個々の見え方・感じ方を大切にする。位置と色を具体的に示す。

造形や工作 ⟶ ①個々の見え方や感じ方を大切にする。

板書 ⟶ ①黒板は明るさが均一になるように照明を工夫する。
②色チョークを使用する場合は、アンダーラインや囲みなど色以外の情報を加える。
③ 黒板は、常にきれいな状態を保つ。

採点・添削 ⟶ ①色の見え方が他の人と異なる子どもがいることを考慮して、色鉛筆やペン・サインペンの太さ・色を選ぶ。

◆ティーチングとコーチング

スクーリングにおけるコーチングは「生徒の自立をサポートするシステム」

自分のスタイル（ティーチング）に少しずつコーチングのエッセンスを意識してみる。

ティーチング	コーチング
教える、指示する	対話、指示(少ない)
答えを与える	質問
ヘルプ	答えを引き出す、共に考える
(助ける、与えるイメージ)	答えを作り出す
結果重視	サポート
	(あとひと押し、下から支えるイメージ)
	プロセス重視

◆簡潔で、具体的な指示を１つずつ（分かりやすい情報の整理）

(例)「ちゃんとしなさい、きちんとしなさい、しっかりしなさい、人の事も考えなさい」などがあるが、これらは具体性がない。

「ちゃんと、きちんと」は、たとえば、「足と手をそろえて、顔を上げて」等と言い換えるとよい。

（補足）

生徒への対応・指示の基本姿勢として、「生徒への対応・指示が統一されている」、「分かりやすい情報の整理」が大切です。

「教員によって対応や指示、言い方がまちまち」だと生徒は混乱してしまい、また、同じ内容を伝えていても、その表現や言い回しが異なると生徒に意味が伝わらない場合があります。

◆言葉を略さず、気持ちがきちんと伝わり、やさしい（平易な）言葉で話す

（例1）副読本 ⟶ **（生徒に実物を示しながら）教科書と同じように使います**

参院選 ⟶ **参議院議員を選ぶ**

難問 ⟶ **難しい問題**

余震が続く ⟶ **地震が１回だけでなく、何回も起きている**

（例 2）**「きのうの約束どおりに、きょうは来てくれたね、ありがとう。うれしいよ。」**

◆前置き、接続詞で意識付けをする

◆指示や説明と活動を分離する

活動の目安を示す

（例）（このくらいだと、２分くらいかな、前の時計で、○○まで･･･）。

◆生徒の行動を示してから板書する

何も言わず板書を始めると、生徒は板書を書き取るのか、そうでないのか困ってしまいます。

⟶ **やるべき行動を指示する。**

◆見通しをもたせる

（例）３つあります。 １つ目は、･････。

◆ **終わったら、次に何をするかを予め伝えておく（次の行動を予告する）。**

こんなときは　　「教師がほめても生徒があまりうれしそうではない」ときは？

ほめるより、勇気付ける

生徒をほめることは大切とされていますが、「勇気付ける」ことも大切です。

二つの違いは、「ほめる」のは、期待されていることが達成できたときのご褒美で、貰い慣れると飽きてしまい、感動やうれしさが薄れることがあるのに対して、「勇気付ける」のは、達成できたときだけでなく、失敗したときも、あらゆる条件で“共感的態度”で接することです。「勇気」は自尊心、所属感を失わないでいられる態度です。（アドラー）

資料2

平成27年度　スクーリング見学週間コメントと教科のまとめ、卒業時に身につけておいてほしいカ

【補足確認】
スクーリングの性格と指導

平日登校講座：
- ○ スクーリング時間内での添削指導によるレポート完成が前提。
- ○ 学習内容の説明だけではなく、机間巡視による添削指導が必要。
- ○ 「新レポート」では、机間巡視、添削指導が一層可能となるような量・内容を考えます。

日曜スクーリング：
- ○自学自習の助けとなるように、ポイントを絞っての説明・指導が前提。

教科名	平成27年度　スクーリング見学週間コメント（教科会でのまとめ）	全体で参考になる点（修悠館スタンダードにつながる点など）	（本校生徒に）卒業時に身につけておいてほしい力
国語科	○早めに学習室を開け、早く来た生徒に対応していた。 ○学習内容のアウトラインや問題をスクーリング開始前に記入し、開始時に全体の流れを説明していた。 ○漢文訓読の学習で、「目」のマークを用いるなど、視覚的・感覚的にわかりやすい板書の工夫があった。 ○説明の際は常に生徒に正対していた。 ○机間巡視による添削指導で確認された生徒の理解を反映した補足説明を行っていた。	○空き時間や休憩時間を利用して板書等の準備を行っていた点 ○学習内容のアウトラインや問題をスクーリング開始前に記入し、全体の流れがわかるようにしておく（スクーリング中は消さない）ことで、多くの生徒が学習に集中しやすいように工夫している点 ○図や記号、チョークの色遣い等、視覚的にわかりやすい工夫をしている点 ○レポート以外にも様々な方法で国語への関心を持たせようとしていた点	○日常生活に必要な語彙能力 ○字形の似た漢字を書き分けたり、間違えやすい漢字を正しく書いたりするなど、電子機器の文字入力では身につきにくい知識・能力 ○考えたり感じたりしたことを、言語で的確に表現する能力 ○文字情報を図や記号で表す能力 ○近現代文学や入門的な古典文学に親しむことのできる読解力
地歴公民科	○プロジェクタをつかったスクーリングで、直観教授が行われていた。 ○プロジェクタ画面と板書を並行して活用しリズムを出していた。 ○スクーリングの前半でプロジェクタを用いた直観教材を提示し、後半ではスクリーンをしまって黒板全体を用いての説明を展開していた。 ○複数の新聞の現物を提示し、記事の比較をしていた。	○プロジェクタを使った直観教授は有効。プレゼンテーションというよりも、現物についてのイメージを持たせるということ。 ○問答をくりかえすことで、発言につながることもある。答えさせることを目的としない考えさせる発問が、発言につながるケースが見られた。	○日常生活のなかで用いられることばの意味を考えようとする力を身につけさせたい。 ○日常生活のなかにみられる諸現象について、その原因や背景を探ろうとする意欲を身につけさせたい。

教科名	平成27年度　スクーリング見学週間コメント （教科会でのまとめ）	全体で参考になる点（修悠館スタンダードにつながる点など）	（本校生徒に）卒業時に身につけておいてほしい力
数学科	○スクーリングの始まりで、礼をしてから始めるのは、区切りをしっかりつける点でとても良い。 ○図を使いながら、大きな声で丁寧に説明しているのでわかりやすい。 ○机間巡視のときに一人ひとりの理解力に合わせた指導をしている。 ○板書における色チョークの使い分け。 ○＋、－の計算のいろいろなパターンを板書で説明している点がよい。 ○＋、－の計算で、数直線を取り入れることで視覚的に理解できるように説明している。 ○1次不等式の解き方を、一般的な方法で丁寧にまとめている。 ○今日の内容や、レポート提出時の注意などを、導入の際にしっかり行っている。 ○不等式を解くだけでなく、具体的な数値の代入や図示によって、y'の符号を判断する方法を紹介している。	○スクーリングの中でも、レポートの出し方を確認する。 ○字は大きく見やすいように書く。たくさん書きすぎない。ポイントをまとめた構造的な板書。 ○一人ひとりのつまずきに合わせた指導。 ○早く終わった生徒のために補助プリントを用意する。 ○スクーリング開始前に、重要なポイントを黒板に書いておき、開始後スムーズに説明に入れるようにする。 ○他クラスの生徒がしたうまい解き方の紹介。 ○レポートに取り組む時間と、全体説明、机間巡視する時間を交互にとることで、生徒が少しずつ自力で答えにたどりつけるようにする。	○四則演算を中心とした基本的な計算技能 ○合理的、論理的に考えを進めるための数学的な思考力や表現力 ○将来の学習や生活に、数学を積極的に活用しようとする態度 ○問題の意味を正しく理解し、適切に処理する能力
理科	○前回のスクーリングの内容の確認をパワーポイントを利用して、分かり易く、テンポよく説明していた。 ○話の流れ、展開に沿ってとても丁寧にパワーポイントが作り込まれていた（ただ、作成には時間がかかったと思う）。 ○終了時には、次回の内容について、学習内容の流れを考えて話しているので、次の出席につながっていくと思う。 ○レポート提出時の注意、バーコードシール、切手についての注意をしている。	○パワーポイントで、重要な個所は赤字、アンダーラインで示している。 ○レポートの問題は、解説の後に示している。 ○レーザーポインターではなく、“指示棒”を使用している（のは見易いかもしれない）。 ○例が豊富。 ○レポートを仕上げる時間は後で確保するので、見る・聞くことに集中して欲しい、と生徒に伝える。 ○机間支援、個別対応の時間を充分に確保している（数学科）。 ○演習時間の余った生徒に対して、補助プリント（問題）を用意していた。 ○入門科目では、机間支援・個別対応の時間を充分取るのはとても重要だと思う（数学科）。 ○スクーリング開始時に全体で挨拶するのは、“これからスクーリングが始まる”という気持ちになる（生徒の立場でみると）。 ○レポート完成講座の案内もスクーリングの中で紹介する。	○日常生活のなかにみられる事について正しく理解し、その原因や背景を多面的に考え、科学的に探ろうとする意欲。 ○将来にわたって、それらのことに興味を持つだけでなく、問題意識を持って行動できる力。 ○日常生活との関連、科学の必要性や有用性の認識。 ○科学的根拠に基づき、多面的、総合的に判断する態度。 ○科学的探究についての理解。 ○新たなものを創造しようとする力。
保健体育科	○記入が遅く、書くことが苦手な生徒のために、直接教科書にマーカーさせ、後でレポートへ記入させ、スクーリング後半にレポートをまとめる時間を作りスクーリング時間内で採点までした点は、参考になった。 ○コミュニケーションが苦手で、グループ等を作るのが困難な生徒が多くいるので、教員側の指示でグループを作り、会話のきっかけとしてあいさつ等をし、実技に入ったことで生徒同士のコミュニケーションが活発になるように工夫していた点が参考になった。	○次回のスクーリングの予定（日程・レポートの回数・活動場所・種目等）をはっきり伝えていた（板書）。 ○前期、後期の最初にスクーリングでオリエンテーションを行い、実技への参加に対する不安を軽減した。 ○身体面・精神面等で実技への出席が困難な生徒に対しては、出席の満たし方として、視聴代替（コンテンツ・視聴報告）やオリエンテーションへの出席）提示を積極的にし、単位修得につながるようにしている。	○生涯体育につながる、能力・実践力を身につける。

教科名	平成27年度　スクーリング見学週間コメント （教科会でのまとめ）	全体で参考になる点（修悠館スタンダードにつながる点など）	（本校生徒に）卒業時に身につけておいてほしい力
芸術科	○黒板がきれいに整理されていた。 ○生徒をピアノの周りに集めて歌唱指導することにより、声を積極的に出させていた。 ○「面で捉える」というような専門的な考え方をわかりやすく説明していた。 ○彩色の指導の際、具体的な作業手順を説明する前に色彩理論に触れることで、その作業が持つ意義を理解させるような工夫をしていた。	○最初に説明することは、休み時間中にあらかじめ板書しておく。 ○全体への支持が必要な場合は、実技作業の手を止めさせて、先生の説明に集中させる。 ○落ち着いた態度でゆっくり話すことで、生徒に安心感を与える。	○芸術を愛好し、文化を尊重する心情を育てる。 ○著作権を理解し、尊重することができる。 ○文化財に落書きしたり、油をまいたりしない。
英語科	○詳しい説明よりも、ポイントだけを重点的に説明していた。。 ○学習内容のアウトラインや問題をスクーリング開始前に板書していた。 ○可能な限り、生徒との意見のキャッチボールを行い、コミュニケーションを図っていた。 ○大きな声でゆっくり話すことを心がけていた。 ○板書を書き写す生徒もいるので、ゆっくり授業をすすめていた。	○大きくはっきり、わかりやすい板書。 ○板書はバランスよいレイアウト。 ○視覚に訴える板書。 ○レポートを完成させる時間を十分にとり、時間配分に余裕をもたせる。	○英語のみならず、他の外国語にも興味を持って接する。 ○自らの身の回りにある英語（歌、映画、インターネット等）に興味・関心を持つ。
家庭科	○パワーポイントなど、スクリーンを活用したスクーリングを、各々がよく研究していた。 ○スクリーン以外にも、ホワイトボード＆マグネットシートなどがうまく活用されていた。 ○生徒自身が手を使う作業や、疑似体験を取り入れるなど、実技科目でありながら実習を取り入れにくい、という本校の弱点の克服に向けて工夫がなされている。 ○文字の大きさ、声の大きさ、話す速さなど、伝わりやすい方法が定着してきている。 ○可能な限り机間巡視をしたり、スクーリングの前後に声かけをして、レポート作成の遅れがちな生徒のフォローに心がけていた。	○文字の大きさ、声の大きさ、話す速さなど、伝わりやすい方法が定着してきている。 ○パワーポイントなど、スクリーンを活用したスクーリングでは、従来の黒板やホワイトボードでの板書に比べて文字が小さくなりがちなので、工夫が必要である。 ○パワーポイントは、カラーで表現できる長所があるが、色覚に異常のある生徒もいるので、「カラーユニバーサルデザイン」の配慮も欠かせないと思う。	○自らの生活を振り返りながら、衣食住などの日々の生活に関心を持つ。 ○乳幼児や高齢者、外国につながる人々、障がいを持つ人などと「共生していく」という視点を持つ。 ○自らの考え、アイデアなどを字や絵で表現する。
情報科	○提示系（学習資料）を効率よく、わかりやすく見せる。 ○机間指導をしながら、つまづきを見る。 ○実技では「できた」という体験、実感を伴った指導を行う。 ○レポート完成講座の紹介、指示を行う。	○生徒の作業中に、巡回して出席票を回収し、あわせて出席状況の指導およびレポート提出状況の確認を行うことで、生徒の学習の進行について共通認識を持つことができる。 ○あわせてコンピュータ実習ではあるが、コミュニケーションをとりつつ、入力する語句を考えさせることで、言語活動を最大限取り入れる工夫をしている。	○メディアリテラシー、情報機器が使えるだけでなく、本来社会活動において無意識に活用しているはずの、情報処理について目を向けさせる。 ○「情報処理」というのは、かならずしもICT機器を使ったものだけとは限らない…というスタンスで指導を行う。

神奈川県立横浜修悠館高等学校